

2022年3月期 第3四半期決算 FAQ

2022年3月期 第3四半期決算発表に関して、株主・投資家の皆様から想定されるご質問内容をまとめました。決算短信および決算補足資料とあわせてご覧ください。

全体について

1. 第3四半期の業績は、計画通りか？

全体としては、売上・利益ともに計画を上回って推移しています。

2. 第3四半期累計期間の営業利益が232億円と、通期の営業利益見通し175億円を大きく上回っているが、上方修正しないのか

第4四半期は例年、国内教育事業や国内こどもちゃれんじ事業において、新学期に向けたマーケティング活動を活発化するためマーケティング費用が増加し、利益が低くなる傾向にあります。また、介護事業において新型コロナウイルス感染症の影響で当初計画より入居率が低下していること、IT・デジタル投資の増加を見込んでいること等から、予想数値を据え置きます。

国内教育事業

3. 第3四半期までの状況は？

各事業とも、計画を上回っており、また新型コロナウイルス感染症流行前の2019年度の水準まで回復しております。

4. 「進研ゼミ」の足元の在籍数の状況は？

タブレットのUI/UX向上や活用促進等が奏功し、10月から継続率が改善していましたが、1月以降、新規・継続ともに悪化傾向にあります。10月以降の新型コロナウイルス感染症の落ち着きに伴う学校行事の増加、授業本格化、宿題の増加等、学校の急激な変化が影響していると分析しています。新学期である4月の在籍者数の安定化に向け、マーケティングの追加投資で挽回を図っていきます。

5. 学校向け教育事業の状況は？

新型コロナウイルス感染症のマイナス影響から順調に回復しています。また、小中学校でのGIGAスクール構想*の進展に伴い、小中学校で活用いただくソフトウェア「ミライシード」が堅調に採用校数を伸ばしています。

***GIGAスクール構想**：2019年に開始された、全国の児童・生徒1人1台のコンピュータ端末を持つ環境と高速ネットワークを整備し、さらにクラウド活用を備えて「子どもたち1人1人がクラウド活用を前提とした学習環境」を実現しようとする文部科学省の取り組み。

6. 塾・教室事業の状況は？

第3四半期までは、新型コロナウイルス感染症のマイナス影響から順調に回復しています。新学期に向けて新規入会者数が増える時期であり、足元はオミクロン株拡大の影響を注視しています。

K&F 事業

7. 国内「こどもちゃれんじ」の状況は？

国内「こどもちゃれんじ」在籍数の対前年のマイナス幅は今年度期初から拡大傾向にあります。新型コロナウイルス感染症の拡大により、「こどもちゃれんじ」に触れたり体験する機会が減少していることが一因と考えています。このため、体験教材やイベント等を通じて体験機会を増やし、挽回を図っていきます。

8. 中国「こどもちゃれんじ」の状況

第2四半期から大きな変化はありません。急激な少子化の進行、競争激化、教育企業への規制など急激な環境変化に対応すべく、事業モデルの変革に取り組んでいます。

介護・保育事業

9. 足元の入居率の状況は？

新型コロナウイルス感染症の影響で、当社の高価格帯ホームを中心に入居率が低下しています。10月以降は感染が落ち着き、東京都等で緊急事態宣言が解除されたことから入居率は改善傾向にありますが、足元はオミクロン株が拡大していることから、影響を注視しています。

ベルリッツ事業

10. 足元の状況は？

第3四半期累計期間は、語学教育事業はレッスン数が対前年で回復し増収となったものの、留学支援事業は新型コロナウイルス感染症の影響による減収が続いており、為替影響を除いた実質ベースでは減収となりました。一方、営業利益は、コスト削減効果により、対前年で赤字幅が大幅に改善しています。

予算に対しては、売上高・営業利益ともに計画通りに推移しています。